

PM学会四国支部 2023年6月度研究会記録

日 時：2023年6月22日(木) 13:00~14:00

開催方法：オンライン開催(香川大学より配信)

主 催：プロジェクトマネジメント学会四国支部

共 催：香川大学創造工学部, 香川大学産学連携・知的財産センター技術交流協力会

後 援：特定非営利活動法人ITコーディネータ協会

講 師：竹内 謙善氏 (香川大学 創造工学部 造形・メディアデザインコース)

講 演：「発言回数を把握するためのタブレットソフトウェアの開発」

出席者：20名

内 容：

大学における初年次教育において、学生の積極的な挙手と発言を促すことは、特にコミュニケーション能力育成の観点で重要である。しかし、学生が活発に挙手と発言を繰り返す講義を構築するのは一般的に教員のスキルに大きく依存し、教育経験の浅い教員には難しいと考えられていた。また、教育経験の浅い教員にとって特に大きな障壁となるのは挙手した学生を素早く指名し、その学生の発言回数を正確にカウントすることだと考え、発言回数カウントを補助するためのタブレットソフトウェアを開発した事例についてご講演頂いた。ソフトウェアの機能を極力シンプルとした一方、教員の経験に基づく要望を積極的に取り入れ開発したことで、経験の浅い教員でも挙手の絶えないクラス運営を実現できたとお話頂いた。講演後は質疑応答が行われ、参加者から「要望を取り入れる際の優先度の付け方」について質問された際、「内製のメリットを活かし、行き詰った場合は何度か作り直し柔軟に対応したことで実用的なソフトウェアを開発できた」と竹内氏からご回答頂いた。

問いかけ⇒挙手⇒発言のプロセス

1. 心理的安全性、モチベーション、適度なプレッシャーを与える。
 - ・「間違ってもいいよ。」「バカでもいいよ。」
 - ・発言の回数は成績に反映する。
 - ・「今日の授業では1人1回は発言しましょう。」
2. 教員の問いかけ
 - ・答えやすい質問
3. 学生が挙手
4. 教員が学生を指名
 - ・指名していない学生を優先的に
5. 学生が答える。
6. 教員のリアクション
 - ・「もうですね。」「いいですね。」
7. 発言内容を把握する。
8. 発言回数をカウントする。
9. 2.に戻る。

経験豊富な教員は、5秒から10秒くらいのタイムライン上でも、20分間でほぼ全員に発言させる必要がある。

経験の無い教員には非常に難しい。

12

スコア加算画面

名前 0.1 名前 0.1 名前 0.1 名前 0.1

名前 0.1 名前 0.1 名前 0.1

スコアに応じてプログレスバーを表示
スコア1~2：黄色
スコア3~10：赤色
発言回数0.1,2,3以上がひと目で視認したいとの要望から

座席をタップすると即座にスコア(発言回数)が1加算される。
余計な操作なしでカウントできるようにとの要望から

21